

読書のすゝめ HP版

その2

H 27 4 / 9



新任の先生からお勧めの本 第2回

『海賊とよばれた男』(百田尚樹)

町のあちこちで、『出光』という文字を目にすることがあると思います。この出光の元社長「出光佐三」をモデルにした、百田尚樹の『海賊とよばれた男』は、私にとつてとても心に残る一冊です。上下2巻の大作ですが、あつという間に読み終えました。そして「人を信じることの素晴らしさ」「働くとはどういうことか」を私に考えさせる本にもなりました。

敗戦の夏、異端の石油会社「国岡商店」を率いる国岡鐵造は、なにもかも失います。残ったのは借金のみ。その上石油会社大手からも排斥され、売る油もない。しかしそのような状況にあつても、「国岡商店」は、社員を一人も辞めさせることをしません。人々が生きる希望を失った暗い時代背景の中で、彼は「石油」というエネルギーの必要性を予見し、会社を再興させていきます。自分の信念を貫き、社員を信じ、困難にも果敢に挑戦していく主人公の姿はどのページを読んでも、「人としてこう生きるべき」をしつかりと伝えてきます。皆さんにも是非読んでもらいたい一冊です。きつと、人間の素晴らしさ・生きる勇氣と感動を味わえるはずです。



『こころ』夏目漱石

この本を初めて読んだ時は高校一年生だったと思います。その当時は「有名な作品だから読んでみよう」という軽い感じで読んだだけで、正直何が面白いのかがほとんど理解できませんでした。しかし、高校三年生の時に学校の授業でこの作品を読み返したところ、担当の先生の解説がよかったことも手伝って、昔はつまらないと思っていた部分が理解できるようになっていて、とても楽しく読むことができました。

銚二の生徒のみなさんも、自分が昔に一度読んだ作品をもう一度読み返してみると、その当時とは違った感想を持つことがあって面白いと思います。是非自分の部屋の本棚に埋もれている本を、もう一度読み返してみてください。



※『海賊とよばれた男』は第10回本屋大賞に選ばれた作品です。「日本にこんな男たちがいたのか!」と胸が熱くなる一冊です。また、『こころ』は現代文Bの教科書教材となっており、3年次で学習する機会がありますが、全編を読んでもらいたい作品です。

2015年 本屋大賞発表!

『鹿の王』上橋菜穂子(角川書店)

全国の書店員が“今いちばん売りたい本”を決める『2015年本屋大賞』(本屋大賞実行委員会主催)の発表会が7日、都内で行われ、上橋菜穂子氏の『鹿の王』(KADOKAWA 角川書店)が大賞に選ばれました。今回で12回になります。

上橋氏は、昨年、1994年に受賞したまど・みちお氏以来日本人作家としては2人目となる**国際アンデルセン賞作家賞を受賞**しています。

過去の大賞作品は?

- 1回 博士の愛した数式(小川洋子)
- 2回 夜のピクニック(恩田 陸)
- 3回 東京タワー〜オカンとボクと、時々、オトン〜(リリー・フランキー)
- 4回 一瞬の風になれ(佐藤多佳子)
- 5回 ゴールデンランパー(伊坂幸太郎)
- 6回 告白(湊 かなえ)
- 7回 天地明察(沖方 丁)
- 8回 謎解きはディナーのあとで(東川篤哉)
- 9回 舟を編む(三浦しをん)
- 10回 海賊とよばれた男(百田尚樹)
- 11回 村上海賊の娘(和田竜)

